



さとう ありさ ちゃん
(5さい)

おとうさんと おかあさんが ケアー・サポートまつやまで はたらいているの。わたしも おとしよりの おせわをする じごとを したいんだ。



川湯保育園のおともだち



はまおか こうたろう くん
(5さい)

サッカーが すきで おじいちゃんと よく サッカーを しているよ。おおきくなったら サッカーせんしゅに なって オリンピックに たいな。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

木を通して地域を見られるような取り組みを

道が認定する『木育マイスター』の一期生

萩原 寛暢 さん(31歳・中央2)



皆さんは「木育」という言葉をご存じですか。子どもをはじめとする全ての人が、木を身近に使うていくことを通じて、人と木や森との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育もうという取り組みで、北海道生まれの新しい言葉です。

道では平成22度に初めて「木育」を進めていくための「木育マイスター」である「木育マイスター」の育成研修を行いました。その一期生が萩原さんです。

「長女が生まれたとき、お祝いに木のおもちやをいただきました。小さな子どもが思わず口にしても安心で、しかも温もりのあるおもちや。材としての「木」にあらためて注目した瞬間だったかもしれません。長く自然ガイドに携わり、自然界の「生きた木」の一生については多少知っているつもりですが、木材になってから先についてはよく知らないなという思いがありました。森と木に恵まれた北海道には、人々が木材としての木とともに暮らしてきた歴史があります。そういったことも含めて、地域を見る視点の一つとして木育をあらためて学びたいと思いました。

研修を受けてみての感想は。――受講者は林業関係の方や木材屋さん、自然ガイド、環境教

育の関係者、行政関係の方などバラエティに富んでいて、いろいろな刺激を受けました。講師の方の「木は2回生きる」という言葉に象徴されるように、自然界の木、そして木材になってからの木と、木の一生について知ることができたことは、大変意義深かったと思います。

萩原さんの考える木育とは。――てしかがえこまち推進協議会の人財育成部会に所属していますが、子どもたちが地域の中でいろいろな体験を重ね、土地の風土を知るための視点の一つとして、木と自分たちの暮らしとの結びつきに気付いてくれたらと思います。そして、そのことをよそで自慢できるようになってくれたらうれしい。観光振興にもつながると思います。今後の抱負をお聞かせください。

――今回、木育マイスターに認定されましたが、ものすごく木について詳しいというわけではありません。ただ、特に子ども向けの活動を通して、地域での木育の推進と、みんなが地元の良いに気づくことができる下地づくりができればいいと思いますし、その可能性が見えてきたとも感じています。木を通して地域を見られるような取り組みをしていきたいです。

毎週火曜日と木曜日の18時30分から、修武館で活動を行っている摩周空手道協会の皆さん。現在、会員は15人。そのほかに、スポーツ少年団の会員が14人いて、大人も子どもと一緒に稽古を行い、心身の鍛錬に努めています。



摩周空手道協会と摩周空手スポーツ少年団の皆さん
3列目中央が指導者の南さん

活動を始めたのは約31年前。修武館ができたことをきっかけに、空手をやってみようという有志が集まって発足しました。

皆さんが習っているのは「松清館流」という流派で、空手の四大流派の一つとされているものです。松清館流浩気塾弟子屈支部の支部長である南伯雄さんが、協会とスポーツ少年団の指導を行っています。南さんは、会を立ち上げた有志の1人です。

「会員はほとんど休まずに稽古にきます。意欲的な方が多いですね」と南さん。空手が好きという会員ばかりだそう。ただ最近、会員が減少傾向にあるのが残念とのこと。以前は、釧路市での大会などにも出場していたのですが、会員の減少で難しくなってきたと話していました。

「空手は心も体も鍛えられ、礼儀も身に付きます。何より、私自身楽しくて長く続けてきました。これからも長く会を続けていきたいです」と南さん。新規会員も随時募集中とのこと。興味のある方は、南さん ☎482-22308 までお問い合わせください。

We are enjoying !!
サークル
おじゃまします!

摩周空手道協会

会長・高梨 雅幸 さん
会員・15人



稽古の様子

482-22308
までお問い合わせ
ください。